五城目町
総合発展計画

令和９年度～令和13年度（2027～2031年度）

町民一人ひとりが主役となる
未来志向のまちづくり



01｜計画の入口

この計画で、何を目指すのか

町の未来をともに築くための、町政運営の最上位計画

「住みよい・住んでみたい・選ばれる町」へ

町民の幸福度向上

暮らしの安心と、一人ひとりが幸せを実感できる地域を目指す。

地域の持続的発展

人口減少などの課題に向き合い、町の基盤と活力を保つ。

協働による実現

町民・行政・企業・地域団体が役割を持ち、力を合わせる。

自然・歴史・文化・人材という「町の宝」を活かし、次世代につなぐ。

02｜現状と課題

五城目町を取り巻く、複合的な課題

人口だけでなく、暮らし・産業・財政・地域のつながりが相互に影響

人口減少・少子化

若い世代の流出、出生数の減少

高齢化の進行

医療・介護需要、支え手不足

産業の担い手不足

農林業の後継者、雇用の確保

災害リスク

豪雨・洪水、道路や住まいの安全

生活基盤の維持

交通・除雪・医療へのアクセス

財政の持続性

福祉支出やインフラ維持費の増加

一つの施策だけでは解決しにくい。分野を越えた取り組みが必要です。

人口減少は、町のあらゆる基盤に関わる

計画案に記載された国勢調査値・将来推計

1960年（昭和35年）	2025年（令和7年）国勢調査速報	2030年（令和12年）推計
20,025人	7,250人	6,660人

2025年国勢調査（速報値）から2030年までさらに590人減少する推計

- 若年層の流出と出生数の減少が続く
- 人口減少は、地域経済・生活基盤・福祉・地域コミュニティに影響

02｜現状と課題

高齢化と少子化が同時に進んでいる

高齢者を支える仕組みと、子ども・若い世代を応援する環境の両方が重要

高齢化率

52.5%

令和７年度資料に基づく記載



町民の２人に１人以上が高齢者。
医療・介護・生活支援の需要が高まる。

出生数の推移



2024年は14人、2025年は13人

子育て・教育への切れ目ない支援が課題

02｜現状と課題

日々の暮らしを支える仕組みに課題

交通・除雪・医療・住まいは、安心して暮らし続けるための土台

移動・交通

- バス利用者の減少と路線縮小
- 交通空白地域の拡大
- 高齢者などの移動手段確保

除雪・住まい

- 担い手の高齢化と技術継承
- 高齢者世帯の雪かき負担
- 豪雨被害と空き家の安全対策
- 空き店舗の利活用

救急・医療

- 救急搬送時間や隊員負担
- 身近な診療所の閉院
- 夜間・休日の医療アクセス

生活サービスを守るには、行政だけでなく地域・関係機関の連携が欠かせません。

02｜現状と課題

地域資源を活かしながら、支える力をつくる

産業の担い手不足と、福祉・インフラ費用の増加が同時に進む

就業者の産業別構成（2020年）



第一次産業	11.5%
第二次産業	24.9%
第三次産業	63.3%

町の歳出・民生費の変化

歳出総額	59.0億円 → 70.5億円
民生費	14.5億円 → 16.8億円

歳出総額は令和元年度から令和７年度、民生費も同期間で増加。

高齢者福祉費・介護保険繰出金も増加している。

※計画案記載の市町村決算カード数値

03｜新たな基本構想

課題を受け止め、町の未来像を共有する

これからの５年間を、どんな町に向けて進めるのか。

計画の中心に置くのは、行政だけで進めるのではなく、
町民一人ひとりが主役となる「協働」のまちづくりです。

03｜計画の枠組み

後期計画は「構想・計画・実施」の３層を見直し

町の方向性から、具体的な事業へつなげる仕組み

基本構想	町の将来像・基本理念・分野別の目標	５年間
基本計画	将来像を実現する主要施策・方向性	５年間
実施計画	年度ごとの具体的な事務事業・予算編成の指針	３年間／毎年見直し

※期間表記は計画案の趣旨に沿って整理。案文中には年度表記に不整合があるため、確定版で確認が必要です。

03｜基本理念・将来像

基本理念は「町民一人ひとりが主役」

世代や立場を超えて支え合い、誰もが役割と誇りを持てる社会へ

町民一人ひとりが主役となる
未来志向のまちづくり

支え合う

世代や立場を超えたつながり

地域の宝

自然・歴史・文化・人材を活かす

柔軟に関わる

住民の声と現場に寄り添う

未来へつなぐ

デジタルや新しい発想も活用

目指すのは、誰もが「ここに住んでよかった」と感じられる町。

03｜基本計画 1

根底から強い町づくり

命と暮らしを守り、地域防災力と行政・経済基盤を強化

災害への備えを、インフラ・情報・地域の力で重ねる

水害・防災

河川整備の働きかけ／樋門管理／内水浸水対策／広域連携

地域の備え

防災訓練・自主防災組織／防災マップ・避難行動計画／情報発信の多重化

基盤の強化

道路・橋梁の点検更新／除雪体制／行政のデジタル化／持続可能な上下水道

あわせて、クマ対策・朝市の活性化・企業誘致・地元事業者の活用なども進める方針。

03｜基本計画 2

町に住む方々が主役の町づくり

声が届き、つながり、支え合える地域社会へ

声を聴く仕組み

町内会長とのホットライン／各地区の座談会／町公式LINE

暮らしを支える

乗合タクシー・マイタウンバス／人にやさしい除雪／医療体制への働きかけ

孤立を防ぐ

シニアの居場所と活動／健康づくり／相談・参加・地域づくり支援の連携

町民の声を行政につなぎ、制度の狭間にある困りごとにも寄り添う。
「誰もが孤立せず、安心して暮らせる地域共生社会」を目指します。

03｜基本計画 3

圧倒的に子育てを応援する町づくり

妊娠・出産から子育て、教育、福祉まで切れ目なく支える

1

妊娠・出産

保健師・保育士による相談支援

→

2

子育て

総合支援施設／ブックスタート

→

3

遊び・健康

こどもの居場所づくり

→

4

学び・成長

学校環境整備／教育留学／五城目高校支援

子育て世帯の負担軽減、こども園の安定運営、スポーツ施設の整備・活用も掲げています。

活性化で儲かる農林業・地域産業

地域資源を活かし、担い手と収益を生み出す

４｜活性化で儲かる農林業・地域産業

農業：農地の集約化、担い手確保、経営の継続支援、効率化・多角化

収益向上：高収益作物の導入、学校給食や公共施設での地産地消

林業：従事者の確保、五城目産木材の利用促進、森林整備の加速化

共通：ICTによる鳥獣対策、地域内の資源循環と付加価値づくり

農林業を持続可能な産業へ育て、地域経済の活性化と雇用につなげます。

さらに文化の薫り高い町に

五城目らしさを磨き、誇りと魅力を次世代へ

5 ｜ さらに文化の薫り高い町に

芸術文化：芸能祭など、参加・鑑賞の機会を広げる

文学・学び：矢田津世子文学記念館、地域図書室「わーくる」の活用

交流と学び：「みんなの学校」を通じた世代を超えた学び合い

文化財：歴史的建造物や文化財の保全、デジタル発信

担い手：町民一人ひとりが「五城目の語り手」となり、魅力を伝える

文化を町民の誇りと交流の力に変え、町内外へ五城目の魅力を発信します。

まとめ｜住民の皆さんと共有したいこと

五城目の未来は、みんなでつくる。

1

守る

命・暮らし・地域の基盤

2

つながる

声を聴き、支え合う地域

3

育てる

子どもと、次の担い手

4

稼ぐ

農林業・地域産業の活力

5

伝える

自然・歴史・文化の魅力

計画案を出発点に、町民の声と現場の課題を確かめながら、
「ここに住んでよかった」と思える町を一緒に目指します。